

## 奄美市世界自然遺産プラットフォーム 第2回公民連携会議

日時：令和4年7月16日（土）14：00～17：00 @奄美市役所5階会議室

参加者（敬称略）

委員：喜島浩介、久野優子、須山聡、常田守、服部正策、濱田政信、久伸博、久留ひろみ、

麓憲吾、松山さおり、宮田夏弥、恵枝美、山下久美子

事務局：徳永部長、平田課長、中村補佐、有川、神田、出口

### 【座長挨拶】

本日は、5人の皆さんから、世界自然遺産に関して、プレゼンテーションしていただいて、それに基づいて議論していくという形で進めたいと思っております。

前回の会議から考えておまして、皆さんに御提案したいことが1つありまして、これ世界自然遺産と銘打っておりますけれども、別に世界自然遺産にこだわらなくていいんじゃないかと私は思っております。

世界自然遺産に何か無理やり関連づけて考えるのではなくて、皆さんが思っている奄美のよさ・奄美にとって大切なもの。そういったことを、議論していく場にしたいなというふうに思います。

守りたいもの、大切なもの。それを守っていくために必要なものを考えるという場にしていきたいなと思っております。

プレゼンテーションに進む前に、先ほど事務局から議論の進め方っていうお話がありましたけれども、前回の会議で確認しましたとおり、この会議は実質的に2本立てで行われております。

緊急性が高い、あるいはすぐに予算化しなきゃいけない提案。これがある一方、もう1つ、じ

っくり時間をかけて議論する内容がある。

世界自然遺産とはどういうものなのか、私たちはそれにどういうふうに接していけばいいのか。そういった事に対する議論があって、それを同時並行で進めなければいけない、ということ、改めて認識して頂きたいと思います。

#### 【常田さんプレゼン～神屋タンギョと住用川流域資源の利用の在り方～】

・タンギョの滝を観光に使えないかってことで、最大の目的は採石場を閉じてもらうために動いたのですが、業者の方が理解してくれて、観光に使いたいということをやったらオーケーしてくれた。

・ここは大型バスが3台ぐらい入る。マストゥリズムもエコトゥリズムも使える。ここを観光に使えたら、金作原への集中も分散できる。

・住用には遺産センターも出来た。隣にはマングローブもある。周辺の自然も体験できる。そこを中心に人を動かすことをこれからは考えていく。

#### 【濱田さんプレゼン～環境文化を軸とした保護と経済振興のゾーニング～】

・世界自然遺産を資源、資産として、守っていきましょうっていうだけではなく、これを生かして、いかに経済を循環、活性化させるか。それを皆さんで共有していただきたい。

・サイン計画も、案内板だけではなくて、統一したデザイン。その文化のバックボーンにあるものを見られるようにする。そういったことをお互いに循環させる。

・世界自然遺産トレイルは世界自然遺産区域に入ってないところも、世界自然遺産という名称を使っている。群島全体で世界自然遺産という名前を使って、コアゾーンから発生したことを全体に広げていく考え。

・常田さんプレゼンの、タンギョの滝の整備を含めて、住用の周辺で何ができるか。観光資源が

大量にある。集落、それから自然、これを全部連動させて、この区域だけでお金を落とせる。

世界遺産センター、タンギョの滝、マングローブの原生林、西仲間には行事もいろいろある。これをリンクさせたら非常に面白い。

・一つの地区だけでこんなにも発想できる。これを、あらゆる地区で、こういうマップをつくってもいい。

### 【紬観光課～役勝エコロード～】

・今既にある好条件の整った隠れた観光資源を、ガイドさんに着目してもらいたい。

・役勝エコロードは、かつての旧県道。川沿いの雰囲気のあるきれいな道。今は通行利用としてほとんど使われてないため、自然環境がとても豊か。大体2キロぐらい。

・エコツアーガイド連絡協議会、あまみ観光物産連盟さんの共通の悩みとして、繁忙期の金作原ツアーの問合せがとって多く対応に困っている。またお客様が溢れている状況が、観光満足度を下げていると感じる部分もある中、金作原に代わる新たな観光地が出来たらいいなどということで、役勝エコロードに焦点を当てた。

・三つの魅力がある。まず、自然の部分。金作原と同じように、世界自然遺産の登録区域内を通る、希少性の高い道だということ。そして金作原にはない河川がある。また安全性もある。

・エコツアーガイド連絡協議会の会員の事業者さんを集めて、実際に研修会を行った。終了後にガイドさんにアンケートを取ったところ、約3割は積極的に検討できるのではないかという結果で、また検討中を含めると、半数弱の方が商品化をできるのかなという意見であった。

### 質疑

**喜島**：役勝エコロード、道は平たんのためヒールをはいている人でも問題ないが、深みのあるガイドでないと難しいのかなと思う。また、階段があつて川に降りられるのだが、希少種が多いの

でテラスを作れないか。そこから先に行けないような仕組みが必要。

タンギョの滝については、安全を第1に考えたコース設定を。建築土木の専門家と一緒にコース設定を考えないと、岩場で滑ったりしないか。どのようなコース設定をしたら安全なのか、考えて行ったらいいのではないか。

**常田：**エコロードは、これから使うには将来性がある。ただ喜島さんがおっしゃった階段をおりて、そこから歩きようがないのですよ。場所としては最高、ただ利用としてはちょっと今難しいのではないか。

**濱田：**マングローブが見られる国道沿いの眺望台がありますよね。あれはなぜ山側に作ったのか。駐車帯が広々ありますので、それなら道路改良をして、マングローブが見られる側に展望台を作って、道路を逆に迂回したほうがいいのではないか。その具体的なところまでこの場で一緒に、話すのか。

**須山：**このメンバーの中に土木、建築の専門家はいないわけで、このプラットフォームでそういう設計までするかって言ったらやっぱり出来ないと思う。けどもこういうのが必要であるっていう提案は、やっぱりできるわけで、そこはやっていく必要がある。

色々な観光コースが設定出来ますよっていうことは言うのだけれども、そのときの留意事項として、こういうことに注意してくださいみたいな話を盛り込んでいくということなのではないかなと思います。

**恵：**エコロードに関してなんですけれども、こちらは自分の仕事で動画の撮影とかもしております。それで、何度もこのエコロードのほうに参りました。

結構道が狭くて、バスが通るのがギリギリな感じで、ただ都会からいらっしゃる方とか、こんな

狭いところ通るんだっていう、多分そういうわくわく感というのも、このエコロードにはある。

歩いて、自然を高めるのもいいかと思いますが、バスを使って、住用のほうからエコロードを  
通って、また宇検村のほうに行くっていうようなツアーもあっていいと思っております。

その際に、道が狭いので、時間帯によって一方通行とかにするという考えがあってもいいのでは  
ないかと思っております。

**須山：**バス利用できるっていうところが、エコロードの非常に大きなポイントではないか。

新しいコースを作ろうっていう話で、前回から考えてみると、まずは観光客をどっか1点に集中  
させるのではなくて、分散させるっていう話が起点だったと思います。

ですから、タンギョと役勝エコロードだけではなく、島内にまだ幾つもの、こういうコースをつく  
っていく必要があるのではないかと。バリエーションを持たせながら、色々なコースをつくってい  
く。これが分散化っていう最初の我々の発想から、延長していくと辿り着けることなのではない  
かと思っております。

**服部：**世界自然遺産になったら、どこを見せるかっていうのを関係者と議論した時代がありまし  
た。その時にエコロードが一番いいなという話になった。

できれば、川や植物が目の前で見られるような立体的な遊歩道をつくったらいいよねっていう、  
みんなで盛り上がった、小野寺先生も一緒にいいなあって。まだ記録が残っているようであれば、  
話の持っていく場所がもしかしたらあるのかなあと思って聞いておりました。

**常田：**基本的なことをお伺いしたいんですけど、バスを利用するってことなんですけど、中小型  
型になりますよね。そういった部分を念頭に入れてお話をしないと、大型バスが通れるんだと思  
っちゃうと困る。

**山下：**エコロードにバスを通すっていうイメージは全くない。金作原の魅力っていうのは、ヒカゲヘゴのところを間近に見ながら歩いて森林浴するイメージで皆さん楽しまれてるので、他に1～2時間ぐらいの間に、島の中で割と手軽に散策できる場所っていうと、観察の森ぐらいしか今はない。湯湾岳もありますけれどそこはなかなかハードですし、ヒメハブとかも怖い。やはり役勝エコロードかなという結論に至った、

ガイドさんへの研修会においても、かなり前向き方もいらっしゃるようなので、このままツアーとして売っていただけるかなと。勝手に入られるのではなく、エコツアーガイドが同行するっていう、最初からそういう想定で動けるようにという狙いもある。

**須山：**それではですね、常田さんと濱田さんのご提案について、このプラットフォームの提案第1号として、「観光客の分散化を進めるため、新しいコースをつくる」という方向で、提案をつくっていきましょう。

提案はできるだけ具体的にしたい。例えばタンギョにしても、どういうルートをつくるのか、どここの整備が必要なのか。そういうことを、次回までに提案書の原案みたいなものを常田さんを中心として作って頂こうと思います。

#### 【久留さんプレゼン～奄美の食文化の成立～】

・奄美の食文化は琉球に近い。琉球方言、琉球音階、それから食文化、この三つは今も変わらず琉球に近い。保存食がみそ漬けが多いために、みそ中心になりますけれどもこれが、今となりましたは長寿につながったということになります。

・長寿者の食生活が、やっていきましたらいろんな人が、スローフードですよって、あんまり取材が来てるので、スローフードって何だろうって。私は母の味だと思ってるんですけども、ちょっと、おばあちゃんたちとコラボして、佐仁料理をつくってもらいました。これが、島料理

と今も言われているものです。

・私のモットーは、作るから、伝える人へ。作っていくことを、ただ自分だけの技術ではなくて、伝え伝える人になってほしいと思います。

### 【麓さんプレゼン～生活文化の歌と踊り～魅せる奄チュアリズム～～】

・コロナの前、観光客の増加により飲食店やホテルなどで、唄者が週末等に駆り出されてかなり疲弊しており、初めて守る調整をするということが必要になってきました。

・そもそも論として、これまで何百年も続いてきた島の生活文化の歌と踊りの在り方を考察したときに、このアマチュアリズム環境を守るべきじゃないかなというふうに思いました。

・地方離島の生まれの中でのコンプレックスなどを抱きながら、出身者がなかなか奄美大島出身と言えない中で、元ちとせの大ヒット以降、何かしらアイデンティティーを取り戻すことが出来て、胸を張れるような環境になったのではないかな。

・コミュニティーの場、島唄を楽しむ場、島唄を習う場、そこをかいま見る観光施設、そこに行けば聞けるだとかですね、そこをちゃんとマネジメントする人材みたいなものが、今後必要なのではないかなというふうに考えています。

・今後ですね、アマチュアリズムが一番盛んな島だったり、内なる生活文化の様を、外から見ると、芸術文化の街となりうるんじゃないかなというふうに考えております。

### 質疑

**須山**：お二方にプレゼンテーションしていただいたんですが、共通するものとして新しいものをつくっていかうっていう、論点があったと思います。

この2つのプレゼンテーションは、ここで何か結論を求めてっていうことではないわけですよ。

何かこう提案を出したいっていうようなお話ではなく、こういうこと、皆さんどうお考えですか

ってという問いかけというふうに受け取ってよろしいでしょうか。

**麓：**先ほどもお話させていただきましたけども、今後、現状来ている入込み数の中で、こういったニーズがあり、今後こういうふうに増加することに対して、受入れをどうするかということ。受入れれば受け入れるほど、仕事が増えたりするが、私が今提案してることは、その手前のほうで、止めようというところだったりするんですけども、通ずるところがすごくあると思いますので、そこをみんなで何か議論する。

**松山：**久留さんの料理教室に私も伺いました。食育ってというのは先ほど奄美の食文化がすごく進んでいるって話をされたと思うんですけど、そういう中で舟焼きっていうのを子どもたちが食べていないことが多かったのかなっていうのがありました。将来島外に出るときに、この味を覚えていてほしいなという部分で、奄美高校へ提案して、ちょっと販売っていうか、出したってという経緯があります。

また、先ほどの麓さんのお話もそうなんですけど、生活文化等そして、それが芸術文化になりうるってところで、プロではないかもしれないけど、でもこれが芸術文化なのであれば、島外で、本当にそういう場がいっぱいできればいいかなっていうと、そこには、やっぱりマネジメントも絶対必要なのは、ちょっといろいろ、見ながら、感じるところです。

**須山：**料理にしる、音楽にしる、アマチュアリズムでやっていたものを一部、部分的に商品化されてるわけですね。麓さんの話だと、完全に商品化して、全員が元ちとせさんになるというのはやっぱりよくないよ、まずいよってということなんですか。

**麓：**セパレートしたいわけではなくて、軸ありき自由選択っていうのがあったほうがいいなと思ってる。島唄に関して言うと、そういう成り立ちなので、唄い手本人がプロになりたい、有名



になりたいと思うのは自由だと思っているんですが、その軸がなければ、9回裏からのスタートの議論になってしまう時代が来るんだらうなっていうふうに思っている。

**久：**今ふと思ったのが、やはり観光客にとって重要な要素が、食う、寝る、遊ぶ。今までの日常と違う非日常を奄美で味わいたいのかなと思って聞いていたところでした。

そこに島唄もあるし、料金も日頃食べられないものを食べる。そういったものが存在するのかなと思っておりました。

**濱田：**人を増やすっていうのを先頭に持ってくるのは、まず間違っていると思う。観光事業にしても、どんどん人の観光客を増やすにはどうしたらいいかっていうのも、奄美の世界自然遺産も、それから文化を守っていくっていうこと、歴史を守っていきながら、奄美、奄美群島の魅力を発信するっていうのを流入人口とか、そういうのを増やすっていうのを、目標を立てるとそこから失敗が始まるんじゃないかとすごく感じました。

**久野：**常田さんが言っていることも、麓さんが言っていることも、多分同じことなのだろうなどは思います。

こちらで100万人想定のお話をしたんですけど、私もそんなに受入れなくていいと思います。人が来て儲かる前提で皆さん考えてらっしゃる。最初はすごい不安で聞いていたんですけど、やっぱり皆ブレーキをかけたほうがいいなって思ってらっしゃるっていうのはわかったので安心はしたんですけど。

コースがないのは確かに問題で、ある程度減らさないっていうのはすごくわかっているので、全然賛成なんですけど、それぞれを使うのはガイドさんの力量だし、常田さんが提案したコースはすごく危険がいっぱいでっていう事なんですけど、そういうコースがあってもいいと思います。もう秘境みたいな扱いで、それこそ値段を相当高く設定して、そういうところで、利益をやっぱ

り生まなきゃいけないし、それこそ箔がつくし、ハイレベルな観光地となるんじゃないのかなって思います。

観光に使うお金が高ければ、それで島が潤うわけだし、今頑張ってる人たちが、多分対価が合っていない。今やっていることが、お金になるような仕組みをどうかつくっていったらなと。

**須山：**お2人の話の共通として、新しいものを生み出すっていうことだと思うんですね。

久留さんからは伝えるっていうことを言われたんですけども、僕に言わせればその再生産の仕組みだと思うんですね。新しい料理、新しい音楽、新しい芸術をつくり出すシステム。それと、それらを提供する空間。この二つが必要だというふうに私は理解した。

**宮田：**私は4月に初めて奄美大島に来て3か月たつんですけども、横浜出身なんですけど、横浜の人とかからやっぱり奄美に来てみたいとか、いろんなふうに言ってもらっているんですけども、あと取材とかを受けるときも、奄美のことをより外に知ってもらいたいというふうにやっていますけど、ただ、人が増えるだけではなくて、歴史であったりとか文化であったりとか、やっぱり、人がすごく魅力だになってというのが奄美に来て思っているんで、どういう文化、歴史があって、今の人の考え方があったりするのかっていうのを、しっかりと知ってもらいたいなっていうのをすごく思いますので、ただ、その関係人口が増えることではなくて、歴史とか、食文化の背景とか、そういうのを理解してもらいたいなっていうふうに思う。

**須山：**ここにいる人は大体島の人で、なかなか外からの視線っていうのが得られないっていうのが正直なところで、そういう意味で宮田さんの御指摘は非常に貴重なのかなと思います。

やっぱり世界遺産としての在り方をどうしたらいいかっていうのも本当にまだ手探りで考えてる状態なんだと思うんですね。それぞれ皆さんの中にその世界遺産像ってのはあるはずなんですけど、それをうまく言葉になって表れてないっていうのが現状だと思うんですよ。

別に意見をまとめるつもりは僕は全くないんですけども、少なくとも自分が思ってるもやもやを、ちゃんと言語化して皆さんと共有するっていう作業をする必要があるんじゃないかなと。

で、久留さんと麓さんのプレゼンに対し、何か提案をっていうふうに持ちかけましたけれども、何かこう具体的に上にかける提案ってのはまだ難しいかなというふうに拝見しました。

こちらは継続的に議論していくということによろしいでしょうか。※意見なし

#### 【久さんプレゼン～世界自然遺産登録を考えていくうえでの課題の提案～】

- ・ 1 ビロウの撤去
- ・ 2 世界自然遺産登録記念碑の建立
- ・ 3 奄美市世界自然遺産推進事業関連のまとめ
- ・ 4 世界自然遺産登録ガイドブック&副読本の作成
- ・ 5 人材（啓発活動の講師）育成
- ・ 6 世界自然遺産保護活動への補助・助成及び支援・表彰
- ・ 7 世界自然遺産登録に至るまでの自然保護と開発事業（行為）に関する歴史（経緯）
- ・ 8 盗難・盗掘等違法行為で保護・押収された動植物及び疾病・傷病鳥獣類の保護管理計画

#### 質疑

**須山**：非常に具体的な内容でしたので、このまま提案として出しても良さそうな気がします。

緊急性の高いものって考えたら、1番のビロウなんじゃないかと思うんですよね。これはもう補正予算で何とかしたいぐらいだなっていうふうに思うんですけども。

**事務局**：補正予算という場合、まず実施計画への計上が必要となるため、今のタイミングでは難しいのかなと。もう一点、ビロウに関してですと最初に植栽されたときの経緯を、詳しく確認する必要があるのかなと思ってます。

何か聞くところによると、地元の名士の寄附によって植栽されたという話も聞いたことあるもの  
ですから、そこを確認したうえでじゃないと、行政としてちょっと動きづらいのかなという点も  
あるものですから、そこだけ確認できればなと思ってます。

**松山**：6番のですね、世界自然遺産活動への補助助成及び支援表彰、団体個人とかあると思うん  
ですけれども、やはりちょっとこう、地元の方から私もクレームというか要望というか。

今メディアでは奄美が世界自然遺産になりました。でも、観光客をメインに考えてるんじゃない  
かっていう意見をいただきました。

やはり自分たちが今まで育ってきた自然が、観光客メインで、観光客の方たちのためにやってい  
る。だから、自分たちの孫とか、今までに入ってた浜とか、そういうところが規制されてしまっ  
て、自由に行き来が出来なくなったっていう経緯を聞きましたので、活動への補助助成っていう  
のは、やっぱりその大事じゃないかなと思います。

地元の人たちの気持ちというか、今まで育ってきたこの土地に対しての自分たちの土地だってい  
う意識はなかなかあると思いますので、そこをどういうふうに折り合いをつけていくかっていう  
部分でも、6番も早めにちょっと提案していただきたいなと思いました。

**須山**：6番ね、いろんな補助であるとか啓発、やっぱり自然を守るとか、地域の環境を守るって  
いうインセンティブが必要なんだと思うんですよね。それも色々な補助金を出すっていう方法も  
あると思いますし、何か別の褒め方っていいですか、そういうのもあるかなと思うんですよね。  
やはり提案するんだったら、よりもうちょっと踏み込んで具体的に、こういうふうに褒めましょ  
うみたいなことを言わないと、行政が困ってしまうと思います。

**喜島**：8番についてなんですけども。世界自然遺産になる以前から希少種・固有種を取ったらど  
うするんだっていう。条例だって罰則規定もあるんですけども。過去奄美大島では山から持って

きて、庭で立派に育てるっていう人が結構いた。島外に移動させてはいけませんよってなっていた。是非提案頂きたい事案だと思います。

**須山：**皆で知恵を出し合えば、この8つの提案は十分に実現可能なんだと思うんですよね。お1人で考えるとなかなか出来ないんですけど、こういうところで、意見を出し合えば、いろんな方が思いつくと思います。

来月まで八つ案を作って下さいっていうのは、ちょっと久さんが大変かもしれませんが、お手伝いいたします。

**事務局：**先ほど1番のところに、追加で外来種対策っていうお話もあったのですが。

**須山：**外来種に関しては、もう一度、改めて提案をしていただきたいと思います。中途半端に取上げちゃいけない問題だと思う。外来種については色々な考え方があると思う。

---

**須山：**それでは次回について。まずは山下さんに入島税のプレゼンを、それから2つ目が久野さんに猫対策のプレゼンをお願いしたいと思います。

もう一つくらいと思っているのですが、喜島さんいかがでしょうか。

やはり、先ほどから議論になっております分散化っていうことで、他にもいくつかフィールドを作れそうだっていうところで。その辺りについてお話しいただければ。

もう一つお知らせしたいのは、配付資料の中に、夏休みの宿題っていうのがあったんですけど、宿題やってきてください、来月まで。

これ最初、事務局から皆さんがどういうことをお考えになってるかっていうことを御意見としていただいたんですけども、ちょっと僕のカじゃまとめきれなかったんですよね。

それで裏側見ていただきたいんですけど、3つの項目作ってみました。

守りたいもの、大切なもの。作りたいもの。あってはならないもの。

奄美の自然だけではなく、私たちの生活全体を見てみて、守りたいもの大切なもの、それからつくりたいもの、これはあってはいけないっていうもの。この三つに項目分けして、次回上げていただきたいなというふうに思うんですね。

これはもう1番冒頭に言いました、世界自然遺産という枠組みにとらわれなくて私たちはどういうふうにこの奄美を考えていくかっていうところのたたき台にしようと思っております。

終了時間：17：00 ※会議時間3時間

次回会議：8/20（土）14：00～@奄美市役所5階会議室